

切り取ってご利用ください

美術講座「放菴作品からみる表装入門－掛軸の様式と取り扱い方」

小杉放菴の代表作を紹介する「没後50年 小杉放菴展」の開催に合わせて、日本画の表装をテーマとした美術講座を開催します。

表装とは、保存や鑑賞のために、書画のまわりに布や紙などを補って、掛軸や額、屏風、襖、巻物などの形式に仕立てることです。

この講座では、放菴の日本画をはじめ、数々の作品修復を手掛ける表具師・寺門泰三氏を講師に迎え、放菴の作品をもとに、掛軸の魅力と取り扱い方法について分かりやすく紹介します。ぜひ、ご参加ください。

と き：10月18日(土)午後2時～3時30分
講 師：寺門泰三氏(表具師)
参加料：入館料のみで参加できます
参加方法：美術館に電話で申し込む
入館料：一般…720(300)円、大学生…510(200)円、
 高校生以下…無料
 ※()内は市民割引券を利用した際の料金です。



小杉未醒作「貴人と馬」



連載 世界遺産 日光の社寺

教育委員会事務局 文化財課
日光市中央町15-4 ☎30-1861

◆「真実性」と「完全性」
 8月号で、世界遺産として認められるためには「OUV」「世界唯一の価値」が必要と紹介しましたが、それには厳しい前提条件があります。

その一つが「真実性」と「完全性」です。「日光の社寺」について言えば、世界遺産の要素となるもの、特に建築物が本物であるのか、そして神仏習合のテーマを示すものが十分に残っているのか、ということが当たります。

特に問題になったのは、古い部材を交換し、表面の彩色を塗り直すことを繰り返して、維持する木造建築物を本物と言えるのかという点でした。石やレンガで作られた歴史的建造物を見慣れた欧米人にとっては、あまりなじみのないことだったのかもしれませんが。

現在、二社一寺では「平成の大修理」として、二荒山神社本殿や東照宮陽明門、輪王寺三仏堂などの主要な建造物の修理作業が行われています。この担当・指導に当

たっているのが、公益財団法人日光社寺文化財保存会の職員です。「保存会」は二社一寺が共同で運営する社寺の建造物修理を専門とした組織で、建築・彩色・漆・金具の専門家が常駐し、伝統的な技法を継承し、江戸時代と変わらない材料を用いた修理が行われています。さらにこれまでの詳細な修理の記録が保管されていることにより、社寺の建造物の「真実性」が認められたのです。そして建造物の十分な保存が「完全性」の理解につながったのです。

二荒山神社別宮瀧尾神社本殿の修復作業

今年も紅葉がやってきた！ 日光の紅葉を楽しもう！！

水の流れる様子が竜に似ていることと、滝壺近くが大きな岩によって二分され、その様子が竜の頭に似ていることなどから、その名がついたと言われます。華厳ノ滝も、男体山噴火による溶岩のせき止めによってできたものです。しかし、竜頭ノ滝の溶岩はそれよりも柔らかく、ガスが抜けるときに溶岩に穴が開き、竜の背中のような岩になったといわれています。

春はトウゴクミツバツツジの紅葉色、夏は木々の緑と水しぶき、秋は紅葉の彩り、冬は氷結の幻想的な姿など、四季折々さまざまな表情を見せて、多くの観光客を魅了しています。特に紅葉は、メディアに多く取り上げられています。

これからの2カ月、皆さんもカメラを片手に、日光のさまざまな紅葉を追ってみてはいかがですか。

げられ、写真愛好家にも人気です。県立日光自然博物館の森田孝道さんに楽しみ方を教えてもらったところ、「これからの紅葉シーズンは、竜頭ノ滝では、トウゴクミツバツツジの濃い赤やヤマザクラのピンクに近い赤、その他黄色やオレンジなど、さまざまな色が楽しめます。滝壺では絵画のような写真を撮影することができます。滝壺で紅葉が始まっていなくても、滝の上部から滝壺まで1週間くらいの時差があるため、上部では紅葉を楽しめる場合があります。遊歩道もありますので、滝全体をゆっくりと楽しんでもらえれば」と話してくれました。



奥日光三名瀑のひとつ「竜頭ノ滝」

総合政策課 日光ブランド戦略室 ☎(21)5131

進め！ 地域おこし協力隊

皆さんこんにちは。今月は三依地域おこし協力隊の中井が日々の活動の一部について紹介します。日光市は広いですね。さて、皆さんは三依がどのあたりにあるかご存じですか？ 自信を持って答えられた方はどれくらいいるでしょうか。と言うのも三依に来た当初、市内在住の方に「三依ってというのは何市ですか？」と聞かれてしまったからです。三依は市の北部に位置し、福島県との県境にあります。そんな三依で、4月から地域おこし協力隊としての活動をスタートしました。

三依には病院がなく、週に1度診療所に獨協医科大学の医師が来ます。地域の有志の方々により組織された送迎ボランティア「心支会」が、診療所までの移動が困難な高齢者を対象に毎週持ち回りで送迎しています。

私たちは心支会の方々に同行するかたちで、送迎車を利用する方の乗り降りの補助を行っています。送迎車の中で世間話をするなど、

どふれあいの場もなっています。また、公民館事業のお手伝いも楽しみながらいるとやっています。その一つに高齢者学級で行われる「グラウンドゴルフ」の審判があります。日光に来るまで知らなかった未知のスポーツとの遭遇でした。巧みな技を披露するベテランの方をはじめ、皆さん元気ハツラツで楽しんでいきます。競技終了後、私たちが「暑い、暑い」と言っている横で、「これから帰って畑やるぞ」なんて声がチラホラと…。本当に皆さんお元気ですね！

4月から始まった三依生活、三依に今あるもの、失われつつあるものを体感し、日々の暮らしの中でこの先に向け何ができるか、さまざまな可塑性を探りつつ、思案中です。

グラウンドゴルフ最高！



グラウンドゴルフ最高！